

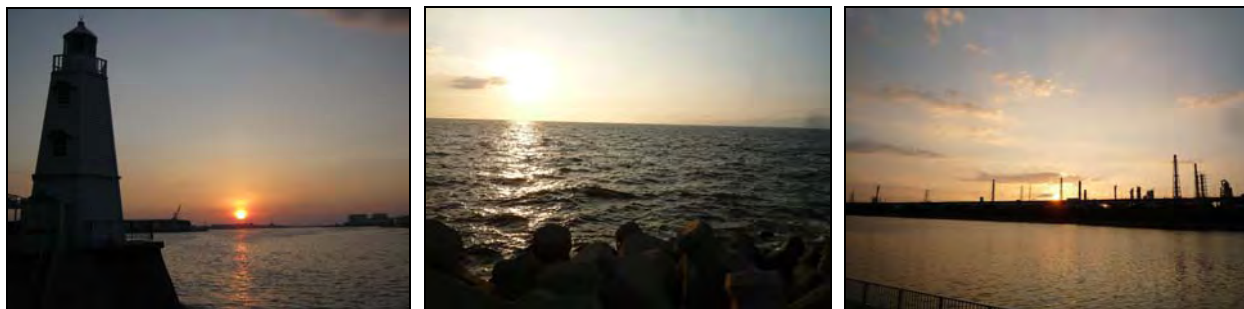


図 臨海部の夕日スポットの現状（左から旧堺燈台、堺第 7-3 区、浜寺水路）

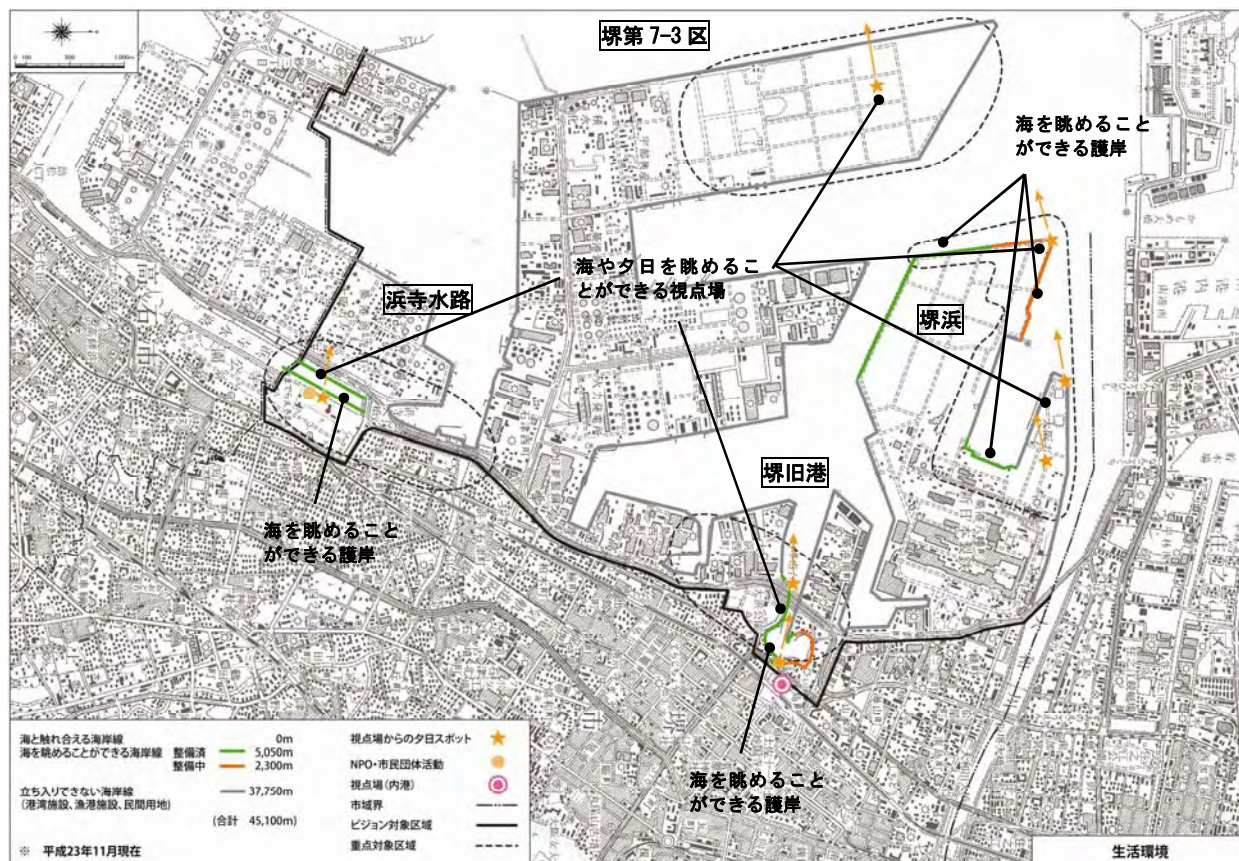


図 分析図（生活環境）

#### <弱み>

- 干潟、砂浜の消失により、海辺での散策、潮干狩り・海水浴等の海辺での活動ができません。
- 埋立造成、高潮護岸整備により、水際線約 45km のうち、海と触れ合える水際線はなく、眺められる水際線は約 5km にすぎません。
- 臨海部の公園・緑地のうち海を望むことができる箇所が少なくなっています。
- 海と市街地が分断され、市民が気軽に安全に海に近づくことができません。
- 市街地から距離のある堺浜や堺第 7-3 区への交通アクセス性が悪くなっています。
- 人が海と触れ合い・眺めるには港奥部の海水の水質が悪くなっています。
- 大和川から大量のゴミが流入しており、河口部の環境を悪化させています。



図 海を眺めることができない護岸



図 駅からのアクセスが悪い堺旧港

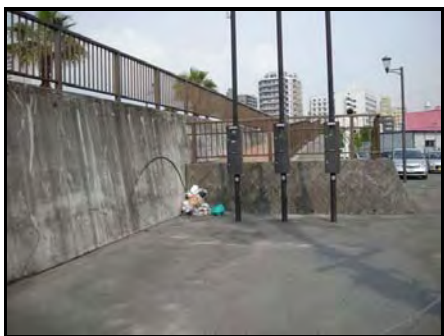


図 海への眺望や触れ合いが困難な護岸



図 河口部におけるごみの浮遊

- 臨海部の開発整備や施設立地は進みつつあるものの十分には未利用地が活用されていません。

以上より、堺臨海部における生活環境の観点からみた現状としては、**良好な視点場を有しているものの、市民・来訪者・子どもの海辺での癒し・憩い空間が不足するとともに、触れ合うに相応しい水辺環境となっていない**ことです。

### 2.1.3 自然環境の観点

自然環境の強み・弱みから見た堺臨海部の現状は、以下のとおりです。

<強み>

- 大阪湾の海域環境改善に向けて、大阪湾再生推進協議会による「大阪湾再生行動計画」に基づき様々な施策が展開されています。
- 生物多様性の確保が期待できる大和川河口部に位置しています。
- 堺浜では人工干潟、堺第 7-3 区では共生の森づくりなど、多様な生物の生息空間の確保が進みつつあります。



図 人工干潟のイメージ



図 共生の森での活動

- 堺浜の北泊地においては「友海（ゆかい）ビーチ」と命名された生物共生護岸の実証実験が進められ、水質改善・生物生息空間の創出に向けた取組みが実施されているほか、人工海浜も整備中です。
- 漁業関係者による海の学習会や、浜寺公園での NPO による昆虫・生物等と触れ合う活動などが実施されています。



図 生物共生護岸



図 人工海浜



図 海上での漁業と海の学習



図 浜寺公園での活動(昆虫採集)